

## 対談

# 無理と無駄のない 看護研究

西條剛央×深井喜代子

忙しい日常業務のなか、残った時間と労力で行う看護研究は、臨床看護師に無理がかかりがちです。一方、専門の看護研究者が行う研究であっても、そもそものテーマが現場から乖離していると、せっかくのデータが無駄になってしまいます。

「研究とは何か?」「科学とは何か?」を根本から問い直す理論研究者の西條剛央氏と、痛みなどのテーマで実績を積み上げてきた看護研究者の深井喜代子氏が、「無理と無駄のない看護研究」を探ります。

## Focus

# 自殺企図者を受け入れる 救急看護師の葛藤

守村洋

## Research

# 薬液が血管外に漏れたときの最適なケアは 温罨法か、冷罨法か、リバノール湿布か?

武田利明

## 編・集・後・記

●『ハチはなぜ大量死したのか』(ローワン・ジェイコブセン著、文藝春秋、2009)を読みました。2007年に北半球に生息するミツバチの4分の1が消えた謎に、科学ジャーナリストがスリリングに迫っており、“2009年版『沈黙の春』”といった評価も聞こえてきています。ハチが消えるとなぜ問題なのか? 果物や野菜を含むほとんどの植物は、昆虫などの花粉媒介者がいなければ実をつけません。私たちの「食」が、ハチに代表される昆虫に大きく依存して成り立っているという事実を知ったことだけでも、私には大きな収穫でした。また、本書が「ハチが消えた原因」について探求し、農薬、殺虫剤、農業の集約化・工業化の弊害などに迫りながらも、最終的な結論を控えていることにも好感をもちました。私たちの社会が直面する問題の多くが、シンプルな原因-結果型の思考では解決不可能となってきていることを、ハチは自らが「消える」ことで教えてくれているのかも。 【鳥居】

●最近、東京のど真んなかの本郷から、郊外に引っ越しました。徒歩通勤から電車通勤になり、周囲には外食できるお店やトレーニングできるジムがなく、少し不便になりました。しかし、ベッドとテレビしか置けなかった部屋には食卓といすを置けるようになり、洗濯物を外に干しても車の排気ガスの匂いがつかなくなり、窓を開ければ空を見ることができます。引っ越してみればじめて、住んでいた空間の窮屈さ、閉塞感に気づき、あたりまえと思っていた生活のありがたさを実感しています(気づくのが遅いか)。物理的には不便でも、精神的にはとても快適です。クリーンな空気がある環境に引っ越すことができたので、今冬は、筋トレにわえ肺活量UPにも勤しみたいと思います。 【吉田】

看護学雑誌 第73巻第11号 2009年11月1日発行(毎月1回発行)

発行/株式会社医学書院 代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2009, Printed in Japan

1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%) 年々め予約購読料 13,200円、電子ジャーナル閲覧オプション付 18,200円(いずれも税込、送料弊社負担)

・定期購読のお申し込み先/(株)医学書院販売部 TEL 03-3817-5659

・Vol.71 No.10以前のバックナンバーのご注文先/(株)東亜ブック TEL 03-3985-4701

『看護学雑誌』編集室(担当/鳥居・吉田・白石) TEL 03-3817-5772

表紙・本文デザイン: DESIGNWORKSHOP JIN

E-mail kangaku@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

**JCOPY** (社)出版者著作権管理機構 委託出版物)

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。

複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, [info@jcopy.or.jp](mailto:info@jcopy.or.jp))の許諾を得てください。